

Lib. ニュース

VOL.13

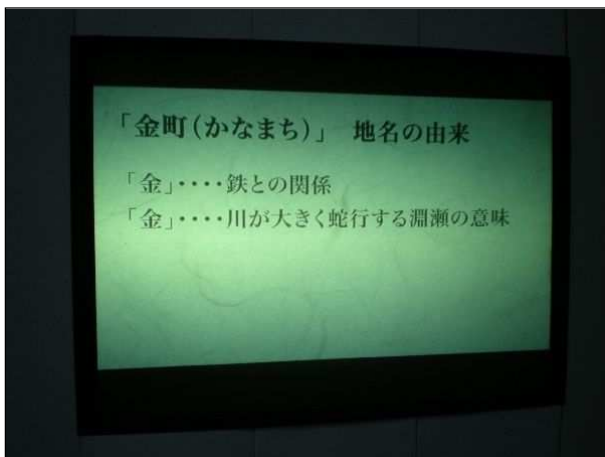
建設工事着々と進行中



現在高層棟の内装工事及び低層棟の躯体工事が進行中です。低層棟がどれくらい建ち上がったか期待を胸に現場に向かいましたが、保護柵に覆われていて外観を確認することはできませんでした。次号では、内装工事の進捗を報告できると思いますので、乞うご期待ください！



また、ヴィナシス金町周辺の整備も進んでおり、長年親しまれてきたすずらん通りアーケードの解体も始まっています。名残惜しいですがヴィナシス金町を中心としてどのように生まれ変わるのかとても楽しみです！



「金町(かなまち)」 地名の由来
「金」……鉄との関係
「金」……川が大きく蛇行する淵瀬の意味

ご存知ですか

Lib ニュース 7で工事現場の仮囲いに葛飾区の文化と歴史などが描かれていると紹介しました。今はすずらん通りに面した仮囲いに画面が設置されており、音声つきで「葛飾・金町の歴史」を紹介する映像が流れています。お時間がある時には是非ご覧になってください！

平成20年12月10日撮影

新中央館に導入されるIC機器を紹介します

平成21年秋の新中央図書館オープンに伴い図書館システムの入替えも行います。新システム導入を期に、図書館資料にICタグを貼り付けて資料の管理を行うこととなります。

ICタグを貼ることにより、自動貸出機や自動返却機といった新しい機器を使用できるようになります。これらの機器を導入することにより、今までカウンターで行っていた貸出・返却手続きが職員の手を介さずに利用者自身でできるようになります。お待たせする時間が短縮される、手続きに職員の手を介さないのが今まで以上にプライバシーが守られるという利点があります。新中央図書館にご来館の際は、是非利用してみてください！



< 自動貸出機 >

操作はいたって簡単です！

利用者カードをかざす

点線で囲まれている部分に借りたい図書やCDを置く

貸出ボタンを押して、画面に表示される資料名と点数を確認する

終了ボタンを押す

ざっと操作は上記からのような流れになります。画面に従って操作すればどなたでも気軽に利用することができます。

< 自動返却機 >

自動返却機にいたってはさらに簡単です！

返却する資料を投入口に置く

何とたったこれだけです。資料が機械内部に吸いこまれていき返却処理が行われます。

さらに自動返却機には仕分機能もついており、予約が入っている資料なのか、他館に返す資料なのかなど、あらかじめ決まったルールで資料が仕分けられます。この自動返却機が設置される部屋はガラス張りですので、返却資料の動きをご覧いただくことができます。

自動返却機は新中央図書館だけの設置になりますが、自動貸出機についてはお花茶屋、上小松、亀有、水元、鎌倉の地域図書館にも導入されますので是非ご利用ください。

立石図書館にはリニューアルオープン後自動貸出機が設置されます。

上記は実際に導入される機器のイメージ図です。実際の導入時には多少変更があります。

葛飾図書館友の会主催

葛飾の図書館をもっと知ろう

「聞こう、話そう、わたしたちの図書館のいまとこれから」というテーマで、葛飾図書館整備担当係の職員と友の会の事業委員会のメンバーを中心に20名の参加者で開催されました。

前半は、図書館は何のためにあるのかな？なぜ利用は無料なの？の素朴な疑問に「図書館法」や図書館に関する法令や宣言を基に説明を行い、さらに、「葛飾区立図書館基本計画」(平成15年2月)、「葛飾区子ども読書活動推進計画」(平成17年5月)により現在の図書館が発展してきたことについてお話ししました。また事業年報の統計資料によりサービス状況や課題などについて、これからの図書館の方向性についての考え方を示しました。

後半は、参加者との意見交換を行い、23区の図書館の統計から葛飾の図書館像を浮き彫りに、葛飾区は昼間の人口の指数が低い郊外型であることや、区民一人当たりの資料費が下位であるが、図書館ホームページなどから見るととても良いサービスをしているのでは？10代の利用を促進するとともに団塊世代への図書の実用性を求めたい。などなど座談会形式での話し合いは充実した内容となりました。

この座談会のおもな内容は「友の会通信 第2号」にも掲載されています。

友の会今後の活動

「もっと知りたい！出版の今と図書館の本選び」 ～出版・流通の現状と図書館選書の課題とは～

というテーマの講演会を平成21年2月22日(日)午後1時30分より葛飾図書館3階第2会議室にて行います。横井真木雄氏(吉川弘文館)と大森輝久氏(東京学芸大学附属図書館)のお二人をお招きしてトークライブを繰り広げていただきます！事前申し込みは不要で、当日会場にお越しいただければ参加いただけます。なお、入場は無料です。みなさんの参加をお待ちしております。

また、その他の活動として新中央図書館オープニングイベントに向けて実行委員会の立ち上げを準備中です。



これを読めば

あなたも図書館通！（蔵書点検編）

“これを読めばあなたも図書館通！”も今回で7回目となりました。毎回図書館のことをもっと知ってもらおうとの思いから連載しています。今回のテーマは蔵書点検です。

蔵書点検とは、実際の資料と蔵書データと突き合わせて、なくなっている資料がないか、正しい場所に配架されているかなどを確認する作業のことです。特別整理とも曝書（ばくしょ）とも呼ばれています。

蔵書点検は、利用者からの要求に的確に応えるための重要な作業です。データ上は所蔵していることになっているけど実際に見に行ったらみつからなかった、または違うジャンルの棚に紛れ込んでいて見つけることができなかった・・・ということがあると利用者の方に不愉快な思いをさせてしまいます。このようなことを防ぎ、気持ちよく図書館を利用いただくための大切な作業なのです。以下に手順を紹介します。

ハンディターミナルという機器を使用し、書架コード（資料の在りか）を設定し、その書架の資料のバーコードをスキャンする。

読み込んだ情報をコンピュータにおとし蔵書データと突き合わせる。

蔵書データの突合結果をもとに資料を正しい書架に移動させる。

不明資料（蔵書データにあるが、実際に読み取れなかった資料）の把握・調査。

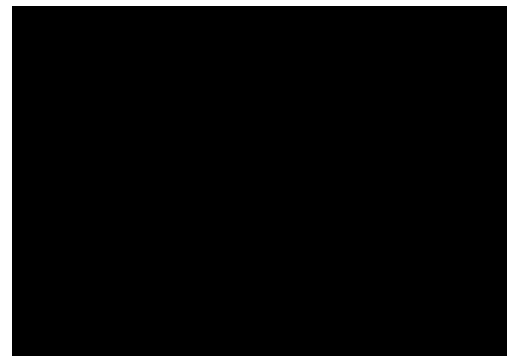


1冊ずつバーコードをスキャンします



読み込んだデータと蔵書データの突合

新しい図書館システムではICタグを使用して資料管理を行うこととなりますが、これにより蔵書点検時の資料の読取作業が効率化されます。従来は資料1冊1冊バーコードをスキャンしなければなりませんでした。ICタグを使用した蔵書点検では、右図にある機器を書架に一定間隔で差込ことにより一度に15冊程度の情報を読み込むことができるようになります。従来は1人あたり1時間で平均1500冊程度の読み取りでしたが、4～5千冊程度読めるようになります。



Lib ニュース VOL.13 平成20年12月28日発行
問い合わせ先 〒125-0051 葛飾区新宿3-7-1
葛飾区立葛飾図書館整備担当係 電話 3607-9201